

米倉教公の週間為替市場見通し

8/14 日週号

ドル/円予想レンジ 107.50 - 110.80 円

『北朝鮮情勢の緊迫化一服までは上値重い!』

■今週の市場動向：ドル/円週足では大陰線引け！

今週のドル/円週足では、大陰線となり7月14日週をピークとして、4週連続上値・下値切り下げとなった。週明けは、前週末の良好な米7月雇用統計の結果を受けたドル買いが継続して底堅く推移した。ただ、111円台を目前に上値は重くなった。8日は、新規材料難のなか『北朝鮮はミサイルに搭載可能な小型核弾頭を開発した』との報道を受けて地政学リスクが高まった。9日は、『北朝鮮が中距離弾道ミサイルでグアム周辺への発射を検討している』と威嚇したことでリスク回避の円買いが強まり、一時110円を割り込んだ。10日は、3連休前の『ゴト一日』とあって仲値に向けて110.18円まで上げたが、日本株安を背景にドル売りが再開した。米7月PPIが市場予想を下回ったことも嫌気され、一時109.11円まで下げた。11日は、米7月CPIが市場予想を下回ったことで、108.71円と4月20日以来の安値を更新した。しかし、売り一巡後は109.40円まで上昇したが、戻りは限定的となった。

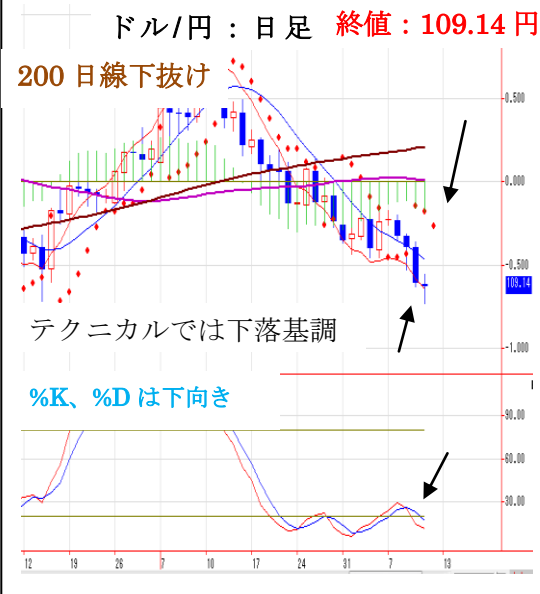
■来週の注目点：北朝鮮情勢の緊迫化一服するまでは上値の重い展開！

来週の注目点は、15日にかけて米国債の満期償還と利払いが集中する。そのため、日本の機関投資家による9月決算を想定した償還資金や利息収入などの円買い・ドル売りが入りやすく、思惑先行の形で円高材料となりやすい。ただ、15日以降は、ドル売り思惑が剥落することから、ドルの上値が軽くなる。15日に公表される米国経済の3分の2を消費が占めるため小売売上高が注目される。また、17日早朝に公表される7月25-26日に開催されたFOMCの議事録で、バランスシート縮小のタイミングを探る。声明では、インフレの展開を監視していく方針を表明した。雇用判断は上方修正されたが、コアインフレや消費の判断は下方修正された。また、バランス縮小開始のタイミングに関しては、『比較的速やかに』にとどめ柔軟性を持たせた。上値目途は、8月4日安値の109.80円、10日高値の110.18円、3日高値の110.82円、下値目途は、8月11日安値の108.71円、4月17日安値の108.09円、昨年7月21日高値107.49円となる。

■テクニカル的な見解：テクニカル的にはドル戻り基調の初動！

シカゴIMM投機筋の8月8日付け対米ドルの差し引き持ち高は、円は前週の▲112,196から▲95,813へと売り持ち高は前週から減少した。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、8月9日から売り転換した。14日のSARは110.545円まで上昇すると買い転換となる。MACD（パラメータ：12、26、9）では、デッドクロスが継続MACDは下向き継続。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K：11.66、%D：17.23でデッドクロスしやや下向き。75日線（紫線）と200日線（茶線）のサポートラインを下抜け。ロウソク足は、前日ロウソク足に対して上値・下値切り下げる下落基調。テクニカル的には、下落基調が継続。8月7日がピークとなり、4日連続の上値・下値を切り下げる展開となっている。休み明け11日安値108.71円を下抜けると下落トレンドが維持される。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。



★前週の気になる出来事

米国のトランプ大統領は71歳、北朝鮮の金正恩最高指導者は33歳と親子以上の歳の差がある。『子供』の威嚇にむきになっている『おじいちゃん』の様相となっている。北朝鮮自身が『体制の終焉』につながる過激な軍事行動を起こすことは想定できない。ただ、8月は日米・米韓での合同軍事演習や15日の北朝鮮祖国解放記念日など緊張の高まる日程が続く。両国とも軍事衝突は避けたいものの、不測の事態というものあり、緊張感が高まりやすい。13日から9月5日まで水星逆行期に入り変動幅が増幅しやすい。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 28 食産第 3988 号,経済産業省 20161108 商第 10 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。